

Design

Hokkaido Design Award
2016

北海道
デザイン
アワード
2016

北海道デザイン協議会



北海道には、北海道ならではの“デザイン”があります。

北海道デザインアワード2016は、道内の優秀なデザイナーの存在と実績をより多くの人に、再認識してもらう
目的で実施しました。

北海道デザイン協議会(デ協)の会員から、自薦・推薦による多くのエントリー作品が集まりました。

ここにデ協会員の投票と審査委員会で選考されたノミネート作品を掲載いたしました。

このデザインアワードが継続されることで、デザインに対する多様な意見や熱意が結集され、“何か”が生ま
れることを期待しております。

本事業の開催にあたり、多大なお力添えをいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

2016年12月 北海道デザイン協議会会長 菅原耕治



北海道デザイン協議会の様々なジャンルを再度、確認、活性化する為に菅原会長が提案された「北海道デ
ザインアワード2016」これe(イイ)よね!は、8名の実行委員会で計画を立てて今年度の事業として進めてまい
りました。

できるだけ全会員が参加できるように、すべてのジャンル、会員において作品募集をさせていただきました。
審査も全会員で審査し、会員間の一つの交流、確認の場になればと進めてまいりました。結果的には多数
の作品応募をいただき、審査においても過半数の投票をいただき、事業としても成立することができました。
本当にありがとうございました。

審査の公平、調整にご協力いただいた審査委員会の皆様にも感謝しております。

初めての事業でしたので不手際やご不満もあったのではと思いますが、どうかご理解いただければと思います。
協賛、後援下さった皆様にはありがとうございました。これからも北海道デザイン協議会にご協力くださ
いますようお願い申し上げます。

北海道デザインアワード2016 実行委員会委員長 大阪克彦

主催

北海道デザイン協議会

協賛

株式会社 アイ・エヌ・ジー 学校法人 池上学園 株式会社 アイデア 株式会社 エヴァンス

株式会社 Ｏ・Ｄ・Ｏ 株式会社 上遠野建築事務所 株式会社 カンディハウス

北日本醗酵株式会社 クリエイティブオフィス メッセンジャー さっぽろ北口クリニック

専門学校札幌デザイナー学院 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル 山藤三陽印刷株式会社

株式会社 翠彩堂 センチュリーロイヤルホテル 有限会社 伊達計画所

中西印刷株式会社 一般財団法人 日本デザイナークラブ北海道 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

有限会社 パディック 株式会社 ひらり 北海シーリング株式会社

後援

旭川デザイン協議会 株式会社 カンディハウス クリエイティブオフィス メッセンジャー

札幌市経済観光局 札幌商工会議所 株式会社 翠彩堂

一般社団法人 日本商環境デザイン協会北海道支部 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

函館デザイン協議会 北海道イラストレーターズクラブアルファ

北海道インテリアコーディネーター協会 北海道インテリアプランナー協会

(50音順)

北海道デザインアワード2016

会員部門

グランプリ

北海道デザインアワード2016
会員部門



伊藤 友一

IFDAポスター・募集要項・ガイドブック

図録・サイン・ディスプレイ

2002年～2014年

伊藤 友一・やはずのよしゆき

細谷 壘・森美 弥子

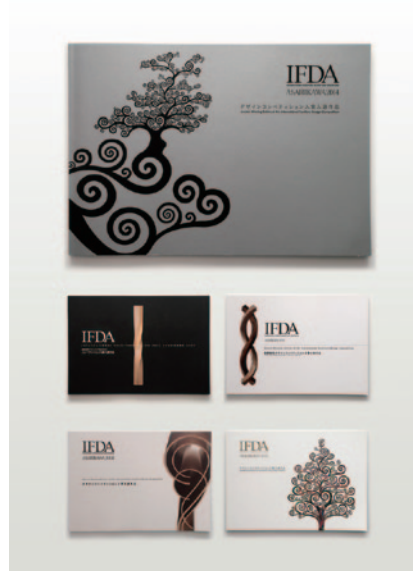
クライアント:国際家具デザインフェア

旭川実行委員会

1990年から3年に1回開催のIFDA(国際家具デザインフェア旭川)。

「デザインは愛、木とくらし」をテーマにデザインした2002年～2014年のポスター、作品募集要項とフェア時に配布をしたガイドブックのデザイン、入賞・入選作品を集めた図録のデザイン、入賞・入選作品展のディスプレイをはじめ、その他の会場に関わるグラフィックツール等のデザインを担当。

図録



ポスター



募集要項・ガイドブック



サイン・ディスプレイ

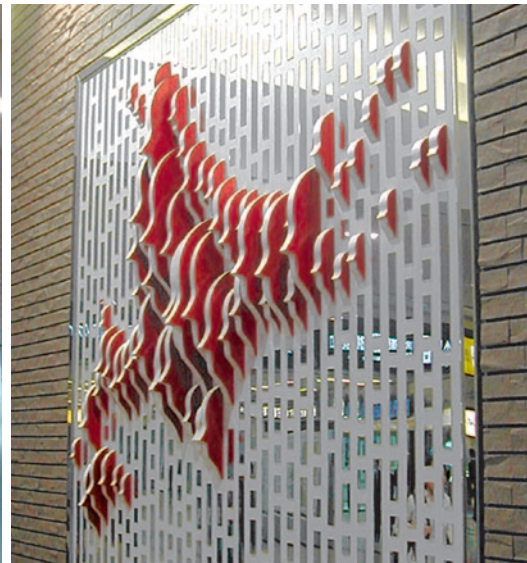


北海道デザインアワード 2016
会員部門



菅原 耕治
北海道の顔
2004年～2009年
アートディレクション：菅原耕治
デザイン：菅原耕治
クライアント：北海道新聞社

JRタワーの札幌駅壁面（東改札口）のアート広告。正面から見ると
白い北海道。左側からは青色。右側からは赤色。北海道の形を、
顔で構成したデザインです。





三善 俊彦

北海道マラソン 完走メダルスタンド

2011年～2015年

制作者：三善デザイン事務所

監修：安田侃、北海道マラソン組織委員会

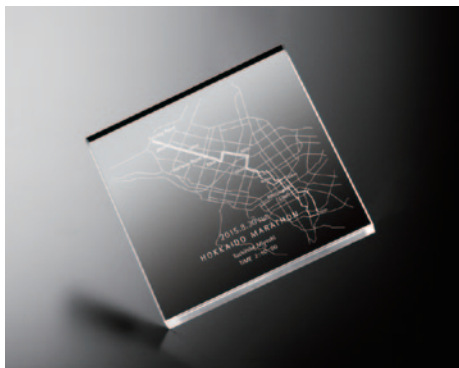
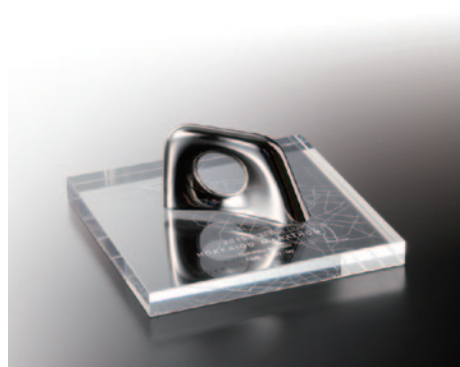
グラフィック

北海道を代表する公認マラソン大会「北海道マラソン」で、2011年から2015年まで、フルマラソンの完走者に授与されたメダルと専用スタンド。

北海道出身の彫刻家・安田侃氏の作品「妙夢」をモチーフに、開催年ごとに異なった色のリボンがあしらわれ、アクリル製のメダルスタンドには、走者名・完走タイムなどが刻印されている。

道外からの参加者は、JR札幌駅のシンボルである妙夢のレプリカとともに、北海道の旅の思い出も持ち帰ることができる。

5年間で約5万人のランナーが完走した。



伊藤 千織

Paper Wreath

2010年～

制作者：Chiori design

クライアント：Chiori design

プロダクト

1枚のシートから誰でも簡単に作れる半立体のリース。
色は使用せず紙色の白、用紙はユボを使用、水にも強く屋外でも可能。
北海道らしい、見ていても癒される新しいリースの提案。



優秀賞

大阪 克彦

パーソナルチェア「ソリ」

1995年～

クライアント：株式会社 カンディハウス

プロダクト



1993年6月「国際家具デザインコンペティション'93旭川」に於いて幸運にも銅賞を受賞した作品です。35カ国1地域から993点の中8点が入賞、日本人では唯一の入賞でした。
後に(株)カンディハウスで製品化される様になり、20年以上になります。第10回北の生活産業デザインコンペティション(1996年)に於いてグランプリを受賞して「グッドデザイン北海道」に認定され、2004年に「札幌スタイル」の第1号に認定された作品です。先日、林業の町中川町のふるさと納税返礼品の一つになった事を新聞で知りました。(販売価格は異なっている様です)
商品については同社のカタログにあります。

優秀賞

伊達 昌広

うどんの五衛門

2013年

設計：伊達昌広

クライアント：(有)ノースフラワー 鈴木康雄

建築

札幌市内で50年続く老舗のうどん店のタ張郡由仁町への移転、都会の一等地から畑と山林しかない約3,000坪の敷地に小さな店舗計画、畑と原生林、畑の向こうにはタ張岳を望む雄大な景色が広がる。

大地の中のわっぱ建築

クライアントは、北海道の食材にて地産地消を求め、この地を選んだ。『うどん』の大衆性と差別化、インパクトと原風景、素朴さと非日常的な構え、これらの相反する事柄を30坪ほどの空間に創造しなければならなかった。

敷地に馴染む空間を考えたが、違和感だけが残りスタディを重ねるうちに、敷地に存在するのではなく、生態するべきではないかと考えた。あたかも、昔から存在していたかのような新たな建物ではなく、違和感は有るものの力強く、北海道の気候に耐え、生き抜いていく建築、方向性を持つようを持たないオーバルなプラン、質感も地産地消で道南杉を内外に使用し、曲げわっぱを大地に置いたような建築とした。



北海道デザインアワード2016
会員部門



入賞

奥本 隆

すみれラーメン 味噌・塩・醤油

2015年

奥本隆

クライアント：藤原製麺

グラフィック

インバウンド向けの商品ということで日本らしさをイラストで伝えたいという依頼のデザイン。「すみれ」「日本らしさ」のあるイラスト案ということで、ラーメンのパッケージにイラストを入れる理由を探し、「日本=漫画」という答えから、「すみれで作るラーメンの物語」になるような漫画で表現した。他のラーメンのパッケージには無いパッケージデザインを目指しました。



入賞

後藤 精二

ニセコ町シンボルマーク

2002年

AD.D: 後藤精二

クライアント：ニセコ町

グラフィック

四季365日光り輝く太陽と大地がモチーフ、親しみやすく解りやすい簡潔な表現とした。
競合プレゼンテーションで決定。



NORTHERN RESORT
NISEKO

入賞

グラフィック

菅原 耕治

ホテル開業の広告宣伝とCI計画

1996年

アートディレクション：菅原耕治

デザイン:ING イラスト:渡會純价

クライアント:札幌アспенホテル

開業1年前から、企画の顧問として参画。

ホテルのイメージ戦略をネーミングから、広告宣伝、販促ツール、そし

てアメニティグッズまで統一感をもった企画でデザインしている。

オープン告知には、アスペン(ポプラ)のイメージで、画家の渡會純价

氏のポプラと音(楽)の絵でホテルイメージを表現し、展開した。(SP

ツールにも使用)



札幌アспенホテル

入賞

グラフィック

菅原 耕治

通帳デザイン

2010年～

アートディレクション：菅原耕治

デザイン:伊藤浩二・ING

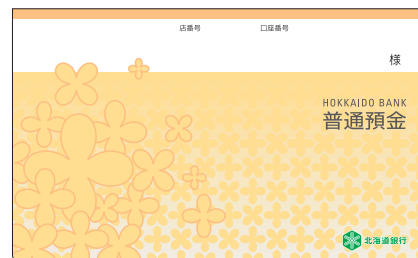
クライアント:北海道銀行

道銀のバンクフラワー(ライラック)をモチーフに、数種類に展開できる

様にデザインした通帳です。パステルカラーを基調に優しく、アキのこな

いデザインです。カード類にもデザインを使い、通帳と連動しています。

道内の通帳としては、ベストセラーともいえるデザインの通帳です。



入賞

グラフィック

菅原 耕治

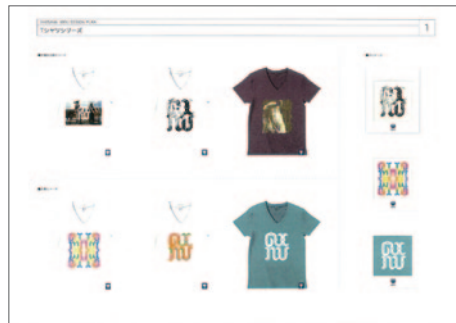
しずないイオル・ブランディング

2012年～2013年

アートディレクション：菅原耕治

デザイン：ING

クライアント：北海道アイヌ協会 新ひだか支部



徳中 康弘

広報に関する色のガイドライン

2016年

ディレクション：谷越律夫・栗田正樹

デザイン：徳中康弘

クライアント：札幌市

入賞

グラフィック

人によって色の感じ方が異なることに配慮し、情報を正しく伝えるための指針として「広報に関する色のガイドライン」を作成しました。カラーユニバーサルデザインを理解するためにインフォグラフィックスを多用し、わかりやすく、見やすく制作した。





三善 俊彦

ACCESS MOERENUMA PARK(写真集)

2015年 規格:250×250mm

編集:モエレ沼公園を考える会、三善デザイン事務所

アートディレクション:三善俊彦

デザイン、データ制作:三善俊彦、小川陽、真野すみれ

コピー:園部明子、モエレ沼公園を考える会

写真:並木博夫、佐藤雅英、他 印刷:アイワード株式会社

クライアント:モエレ沼公園を考える会

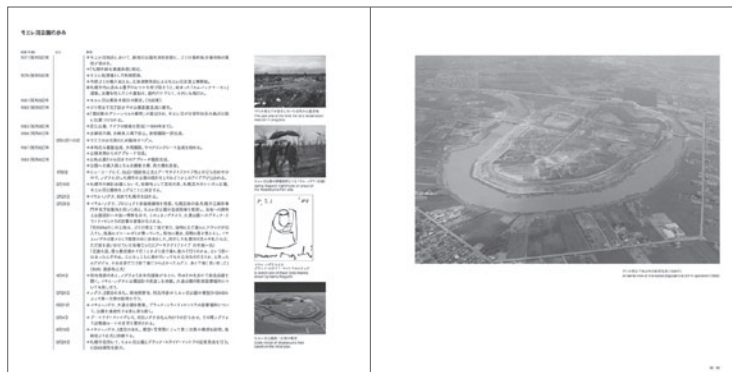
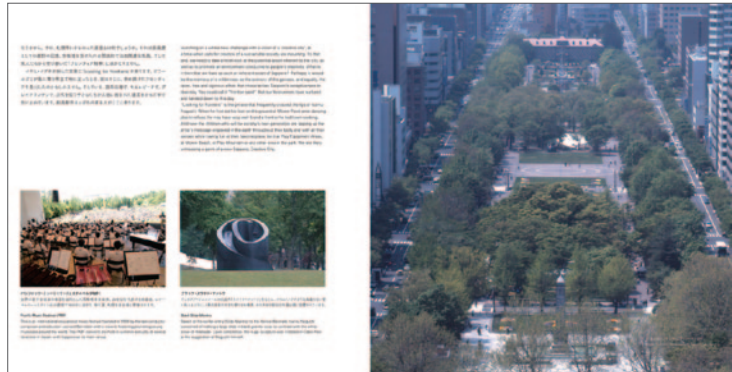
イサム・ノグチ設計のモエレ沼公園の写真集。

モエレ沼公園の写真を中心にモエレ沼公園ができるまでの沿革やイサム・ノグチの紹介、公園の施設紹介などで構成。

2008年に洞爺湖サミットで札幌市が各首脳に札幌の紹介として制作。

2015年にモエレ沼公園を考える会が改訂版を制作。

モエレ沼公園ピラミッド内売店や札幌の主要書籍販売店、アマゾンなどで販売中。



三善 俊彦

北海道市町村 広報誌デザインレクチャー

2013年～

アートディレクション:三善俊彦

デザイン、データ制作:三善俊彦、小川陽、真野すみれ

クライアント:北海道広報広聴課

2013年から北海道庁の広報広聴課の依頼で広報誌担当者に年に一度デザインレクチャーをしています。

各担当者はデザインの学習はされていない方がほとんどで、担当年数も様々。

デザイン講義だけでは到底理解して頂くのは難しいと考えテキストを制作する事を考えました。

自らの分野のノウハウを伝授する事は、考え方によっては、自分たちの仕事の縮小にも繋がりがねないこともあるとも考えましたが、デザイン啓蒙を考え、デザインの可能性や難しさ、できればデザイン業界のことも考えて欲しいとの願いも伝えデザイン講義を開催しています。

当初100名くらいの参加が少しずつ増え今年は140名くらいの方が参加される予定です。



Before



After



Before



Before



After



After



Before



After

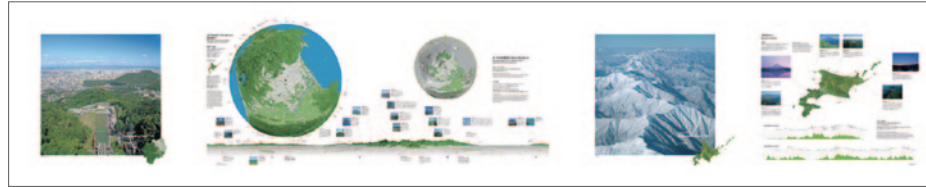


入賞

グラフィック

三善 俊彦

JR TOWER そらの展示 2011年～
クリエイティブディレクター：古谷美峰子
アートディレクション：三善俊彦
デザイン、データ制作：三善俊彦、小川陽、稲垣みづき、
真野すみれ、前角侑里
コピー：谷口雅春 造作：BASIC
クライアント：札幌駅総合開発株式会社



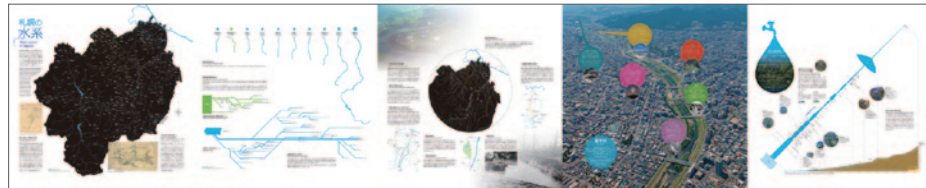
2011年 〈T38からの山々〉展望室から見える山を中心に北海道の山をテーマにした展示。



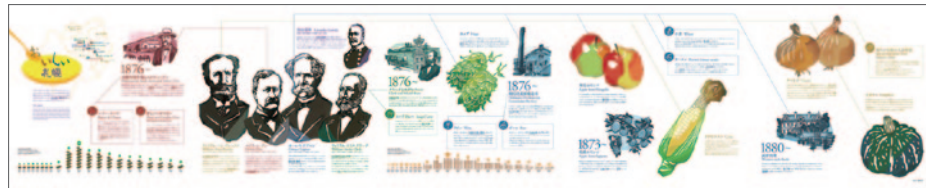
2012年 〈札幌の一番〉札幌の一番なものを紹介した展示。



2013年 〈札幌の雲〉札幌の雲の紹介をした展示。



2014年 〈札幌の水系〉札幌の川をテーマにした展示。



2015年 〈おいしい札幌〉札幌の食の歴史をテーマにした展示。



展示パネル：2×10m



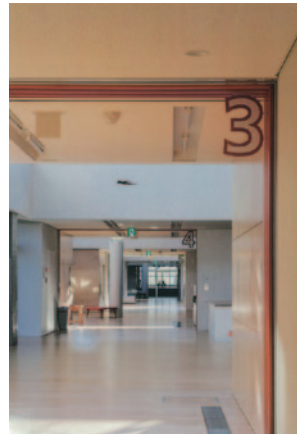
入賞

インテリア

伊藤 千織

東川町東川小学校・地域交流センター
(インテリア・サインのデザインディレクション)
2014年
建築設計：北海道大学工学研究院都市地域デザイン学
研究室／アトリエブンク
インテリア及びサイン デザインディレクション：伊藤千織
クライアント：東川町

大雪山をのぞむ雄大な田園風景の中に移転新築された、全長270mの平屋建ての小学校とコミュニティセンター。
[ランドスケープに呼応した大きな建築]と[小さな子どもたちの生活空間]という二つの空間スケールをつなぐ役割と、自由な創造性を育む空間づくりを、サインと家具・アート作品が担った。
美しい東川の自然、空・水・光・大地をつなぐ「虹の色」をモチーフに、学年色を用いたサインやビッグソファによりゾーニング。オープン型普通教室と広々とした学年ワークスペースは、学習方法や活動に応じて、可動式什器で自由にレイアウトや領域化ができる。
サインもアートも自由に触れたり活用できることで、子どもたちの様々な活動を誘発し、ここにしかない固有の居場所をつくりだした。



入賞

プロダクト

大阪 克彦

パブリックスペースの家具デザイン4点
クライアント：北海道・札幌市・石狩市・帯広市



1-前庭



1-ホール



1-ホール



2-つづら坂



2-野外美術館



2-センター棟レストラン



3-1



3-2



3-3



3-4



3-5



3-6



3-7



3-8



3-9



4-1



4-2



4-3



4-4

1. 北海道立近代美術館(前庭、1, 2階ホール、レストラン)

1977年、独立し事務所(大阪克彦デザイン研究室)を設けてすぐ幸運にも家具デザインの依頼がありました。建築設計担当の(太田実+都市設計研究所)事務所に半年間通ってデザインをさせて頂いた作品で、構造的に強固なデザインです。

2. 札幌芸術の森

1986年、ストリートファニチャーデザインがプロポーザルコンペ方式で行われ幸い小生の応募作品が採用されました。この事がきっかけとなり同年センター棟(田上設計)、工芸館(上遠野設計)等の家具デザインをさせて頂き、1990年に美術館(久米設計)の家具デザインをしました。「第2回札幌国際家具デザイン賞」で大賞を受賞した事で1998年アートホール・アリーナ等の家具デザインをする機会を得る事が出来ました。

3. 石狩市民図書館(日本図書館賞・バリアフリーデザイン賞)

1999年、プロポーザル方式で建築設計を勝ち取った(株)環境設計の下村氏より家具デザインをやりませんかとのお話を頂き、サインデザインの久須美氏、外構設計の斉藤(浩)氏、児童コーナーの煙山氏(いずれも元会員)と共に1年以上かけて楽しくコラボが出来ました。

4. 帯広図書館

2006年、これ又プロポーザル方式で建築設計を勝ち取った(株)環境設計の下村氏と石狩市民図書館の時と同じコラボレーションメンバーで家具デザインを担当しました。

入賞

ファッション

越智 真紀子

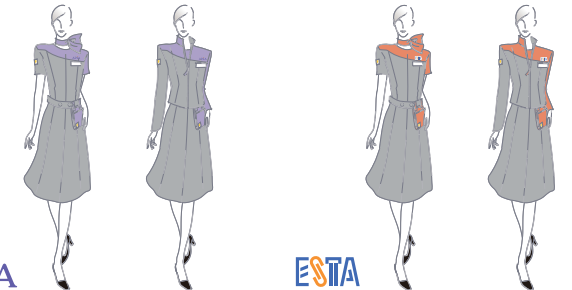
JRタワーユニフォームデザイン
2011年
モードサロンおおたけ アトリエ
クライアント：札幌駅総合開発株式会社



JR TOWER

やさしさをデザインする。

毎日多くのお客様が訪れる札幌駅と直結した、JRタワーの各商業施設。
ここを訪れた人たちに、ホスピタリティをもって対応する、スタッフのユニフォーム。
テーマカラーで展開されたデザインがお客様を優しく迎えます。
ファッションデザイナー 越智 真紀子が演出する「やさしさのデザイン」は、
お客様に安心と信頼を与えます。

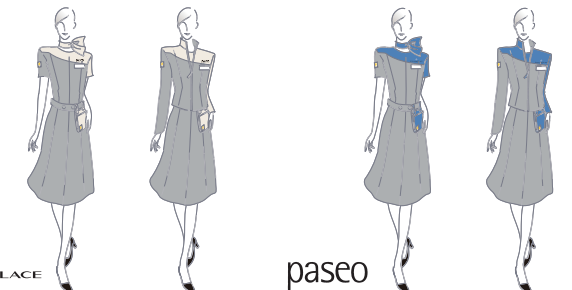


APiA

インフォメーションスタッフ・APiA

ESTA

インフォメーションスタッフ・ESTA



STELLAR PLACE
SAPPORO

インフォメーションスタッフ・ステラプレイス

paseo

インフォメーションスタッフ・パセオ

入賞

戸坂 恵美子

海の詩

2010年

テキスタイル

技法:マーブリング染め

材質:(バック)木綿・(その他)シルク・ジョーゼット

サイズ: 198cm×92cm

解説:ロウしぼり染めでバックを染め、その上にマーブル染めを重ね、
海の世界の美しい詩を奏でたいと思い制作をした作品です。



入賞

上遠野 克

認定こども園カトリック聖園こどもの家

2014年

設計者:上遠野 克

クライアント:学校法人北海道カトリック学園

建築

60年の歴史をもつカトリック聖園幼稚園が、認定こども園として新しく地域に根ざし、札幌市の中心部に残された記念的建物群と都市林の中で、子どもたちに安全で良質な空間を確保しながら、時間とともに成熟していく建築を目指した。施設は平屋建で、周辺樹木の連続性を保ちながらも、外壁等に札幌近郊のレンガ、道産材のカラマツ等を使用し、北国の四季、特に冬の雪景色の中で、美しくたえずむ事を大切にした。

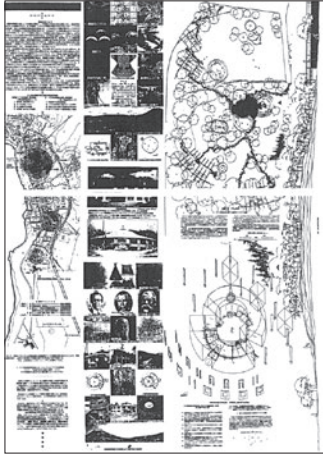


入賞

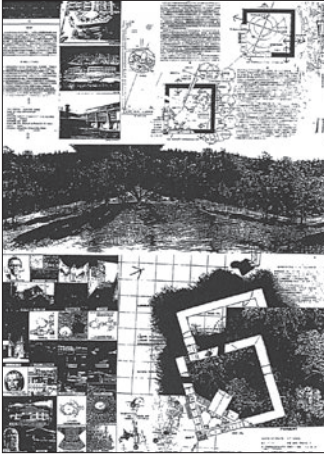
建築

木下 泰男

『空間のリサイクル提案・連作二題／阿寒・北海道, 1996-1998』
一阿寒における原始林・湖の自然とアイヌ集落地域と町の地域住民の為の
幼稚園・小学校舎(田上建築)保存活動とリユース地域空間の提案一
1996年～1998年
クライアント:旧阿寒町



『空間のリサイクル』
保存活動と提案プレゼン作品
©Kinoshita Yasuo, 1996.
/『マリモ(阿寒湖畔)小学校舎・幼稚園舎』
1955年/田上義也*解体 1997年



『歴史建築の再生と保存』
保存活動と提案プレゼン作品
(1998年) ©Kinoshita Yasuo, 1998.
/『鶴飛校舎・阿寒小学校舎』
1965年/田上義也*解体 2000年



この作品は、北海道の小さな行政地域における建築家・フランク・ロイド・ライト(アメリカ, 1867-1959)の流れを汲んだ建築家・田上義也(1899-1991)円熟期による地域念願の小学校建築再生と保存を核とする地域一体を丹念に拾い集めた継承のための提案である。
その意義は立地が極めて特異な原始林と湖と阿寒連山を有する国立公園内であることや湖の天然記念物「マリモ」のイメージの象徴と共に国立公園の原始林を所有していた阿寒開拓の前田一步園・第3代園主光子による敷地提供と木立一本伐採の自然破壊を許さないその制限。先住民族であるアイヌ民族集落らの地域住民の就学児童のための扇型教室群と円形ドーム体育館を中心構成とする木造一部コンクリートブロック造2階建による小学校舎(1955)建設意義とその建築造形にある。田上は、アイヌ民族においては「アイヌの父」と称されたジョン・パチェラー(イギリス, 1854-1944)神父との交流においてその造詣に共鳴し、パチェラーの平取アイヌ民族の境遇改善活動は周知の事実である。
田上自身、札幌においてアイヌ学校校舎(1924)をパチェラーからの依頼で建築している。当時、舌辛(阿寒)村は町制施行直前で、村行政役場は道教育長に理想の校舎建築の意義のため、村民挙げた意思としての建設に相応しい設計技師の紹介を打診し、紹介されたのが田上であった。この建築の用途は、湖畔小学校舎に始まり中学併設に増築された湖畔小中学校舎そして湖畔小学校舎に分離され、そして「マリモ」幼稚園舎(1997年解体)への変遷を辿った。田上建築の中で創造豊かに造形された円熟期の公共建築作品として異彩を放った建築を失うことは町にとっての世界的歴史的建築の系譜を失う損失の大きさからも保存活動及び活用提案の作品となった。

また、この阿寒にはさらに10年後、田上に依った阿寒小学校舎「鶴翔校舎」(1965, 2000年解体)が鉄筋コンクリート一部ブロック造2階建の直角三角を頂点とする2辺の教室群と残る1辺側に体育館の構成と、近接する小川注ぐ雑木林「小鳥の村」に貫入させたその建築造形と配置に近代建築化された秀作と言わしめる秀作建築が存在し、その保存活用について一連の作品提案したものである。まだまだ知られていない地域における建築を通した歴史と活用のあぶり出す地域づくりの可能性の事例として試みている。

入賞

建築

新貝 孝之

十和田市稲生川の家
2015年4月竣工
設計:新貝建築事務所 新貝孝之
クライアント:高淵政勝(個人)

北海道新幹線が開業し、私たちのデザインのフィールドも広がったといえます。
この住宅は北東北・十和田市に建設されました。
多様な風土、歴史、気質に対応するデザイン活動も「北海道デザイン」の可能性であると考えます。
以下にこの建築の設計主旨を記します。

かつて耕作不可能といわれた三本木原に豊穡と繁栄をもたらした稲生川用水の川辺に、この住宅は新築されました。
平面計画ではこの地方に根をはる住居形式である「直屋(すごや)」を踏襲しつつ、「曲屋(まがりや)」の機能性をアレンジし、住宅・倉庫・カーポートが一体となった構成となっています。
道路から玄関までの寄り付きはゆるやかなスロープとし、居室には唐松無垢材の床板、和室の本畳、薪ストーブ台の陶板まで、全てフラットな床面で仕上げ、バリアフリーにも配慮しています。
深い軒庇は十和田市の南中高度から割りだし、三尺五寸近くも張り出しているため夏場は直射日光が遮られますが、冬場には貴重な日差しを十分に取り入れることができ、省エネ効果も期待できます。
更に、この住宅の大きな特徴は、梁材など主要な構造材と造作材のほとんどすべてを地元の「杉材」を使用したところ です。

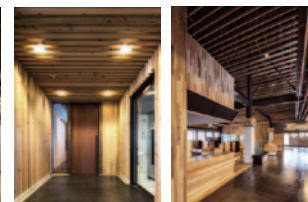
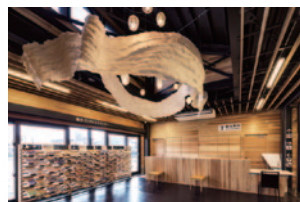
地元の主要な森林資源である「杉材」を「適材適所」に活用したいとの施主の要望に応えるため、「大工職人」「建具職人」が集成材を使わずに一本一本材料を吟味し「適材適所」の使い方と丁寧な仕上げを施されました。同じ自然素材である珪藻土の塗壁と相まって落ち着いてさり気ない「自然な木の香り漂うやすらぎの住まい」を実現しています。



建築

クライアント:木古内町役場

●レストランは木古内の食の源である、海と山を同時に表し、みそぎの水しぶきと杉林の荒々しさや気高さを表している。

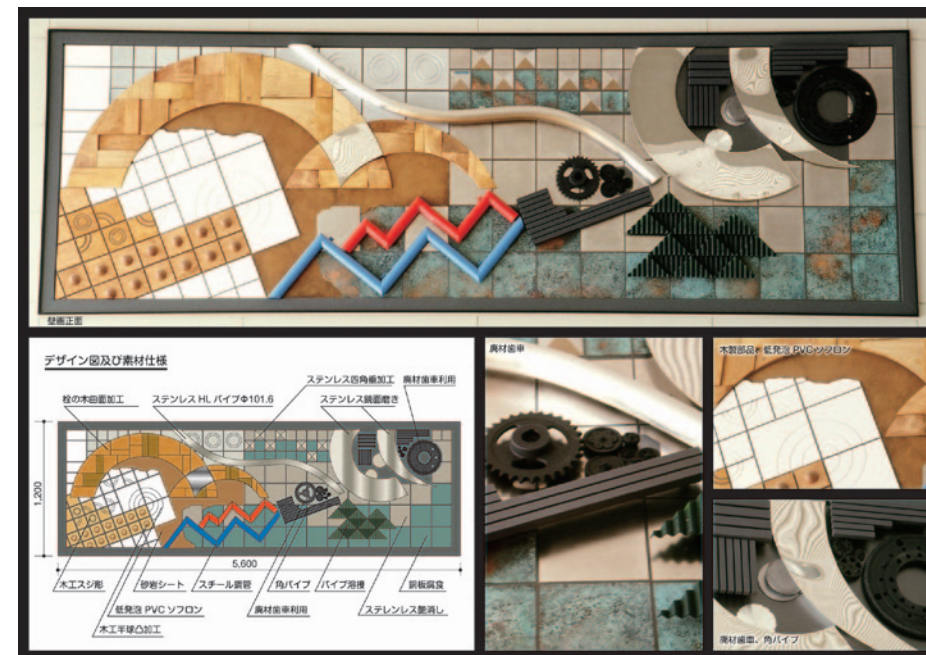


モニュメント

クライアント:北海道札幌琴似工業高等学校

磨きものでは、動きの伴ったものを配置し、エネルギー効果を表しており、物体の放つ陰影は、明と暗、正と邪、美と醜、虚と実といった対極性を視点としてとらえております。

第32回SDA賞 北海道地区デザイン賞受賞



北海道デザインアワード2016
一般部門





ASAHIKAWA DESIGN WEEK 2015・2016

2015年、2016年

制作者：やはずのよしゆき クライアント：旭川デザインウィーク実行委員会

推薦者：伊藤友一

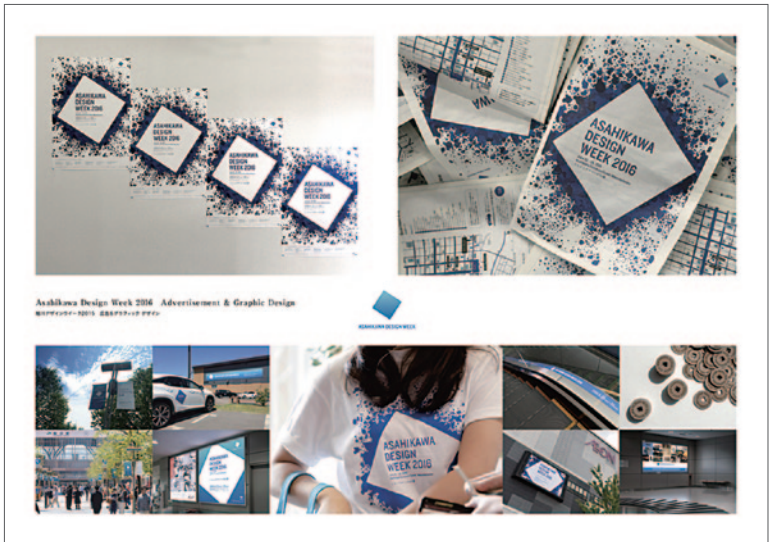
2015年

ADWブルーのマークをベースに、今年のテーマでもある「FOCUS」を連想させるビジュアルを展開。2015年同様に旭川の中をジャックして、イベントへの期待感をより高めるデザインとした。ポスター、ガイドブック、新聞などの広告をはじめ、スタッフが着るTシャツやパーティ＆バーで利用できるオリジナルドリンクコインなど、さまざまなツールをデザインしイベントを盛り上げた。



2016年

イベントテーマとなる「MAKE SQUARE」から発想される、大雪山系の恩恵たる澄んだブルーのマークデザインをはじめ、広告やさまざまなグラフィックツールをデザイン。買物公園通のフラッグ、公共施設へのサイン、シャトルタクシーや各メーカーの車にもマークステッカーを貼り、旭川の街中をジャックしてイベントへの期待感をより高めるデザインを担当。



みよいさん家のとっても甘い 有機かぼちゃ

袋2015年／箱2016年

制作者：クリエイティブオフィス

メッセンジャー 早瀬友梨

クライアント：みよい農園

推薦者：クリエイティブオフィス

メッセンジャー 奥本隆



道南いさりび鉄道

2016年

制作者：函館デザイン協議会

クライアント：道南いさりび鉄道

推薦者：菅原耕治

旧JR線の廃止にともない、第三セクターの鉄道線のためのCI計画です。シンプルで動きのあるマークとロゴタイプが秀逸です。



「小・中学生による安全・快適アイデアコンテスト」事業

1996～2016年

制作者：公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団

クライアント：公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団

推薦者：大阪克彦

全道の小・中学生を対象に始まった「おとしよりが楽しく暮らすためのアイデアコンテスト」から名称を変えて「小・中学生による安全・快適アイデアコンテスト」となり2016年で20回と継続して行われている事業。
お年寄りや障がいのある人が安心して快適に生活できる部屋づくりや身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくり等「安全・快適アイデア」を絵や文字で表現し、毎年1000点近い応募がありユニバーサルデザインとして具現化できれば良いと思われるアイデア作品も多くあります。将来デザイナー・クリエイターとして活躍しているかも知れません。
毎回その結果を広報誌「ウズライフー共に生きる」に掲載し地方自治体など関係諸機関に配布されています。それと同時に札幌地下街オーロラコーナーで展示しホームページにも発表しています。
20年(20回)に渡っての事業として小・中学生・先生・学校関係者そして広く道民に対してデザイン(ユニバーサル)に関心を持たせ啓蒙に寄与している事はデ協が目指している事でもあります。これらをふまえて表彰に値すると思ひ推薦いたします。尚、クライアントは当協議会の協賛会員として長年ご協力を頂いております。デザイン協議会は後援しています。



第20回 中学生の部 最優秀賞

第20回 小学生の部 最優秀賞



株式会社 カンディハウスと長原寛氏の業績

推薦者：大阪克彦

1963年に旭川市海外派遣技術研究生としてドイツに滞在し家具職人としての研鑽を終え帰国した(故)長原寛氏によって1968年に(株)インテリアセンターが設立され、後に(株)カンディハウスに社名は変更された同社は創業時からデザインを重視し優れた技術を持って国内はもとより既に世界を見ていた会社です。

その事は故人が尽力し開催に成功した1990年の第1回国際家具デザインコンペです。

北海道の一地方都市の主催にもかかわらず世界中から1000点にも及ぶ応募があり(6割は海外から)優秀作品は地元の家具メーカーによって製品化されます。同社も積極的に商品化しています。トリエンナーレで行われているコンペも今年で10回目です世界中からの作品を募集中です。

同社で特筆すべきは外部デザイナーを起用し(10ヶ国)、デザイン料(ロイヤリティー)を支払い、カタログにはデザイナー名を明記するという事が当初から行われているという事です。

箱物家具が主流だった旭川家具でしたが同社の道産のナラ材を主材とし椅子を製産した事により、それが手本となって今では多くの椅子メーカーが頑張っています。

1984年アメリカ、2005年ドイツに現地法人を設けミラノサローネ等に出品する等、家具を通して日本の文化や魅力を発信している今や日本を代表する家具メーカーで世界ブランド企業なのです。

6月に開催された旭川デザインウィークの際の同社のオープンドアパーティーには800人もの参加者で大変盛り上がっていました。工場見学ツアーも製作現場を見ようと多くの人だった様です。

毎年ものづくりをしたいと日本中から若者が応募して来るのは魅力があるメーカーなのだと思います。デザインは先進の機械と職人の手仕事によって上質な道具へと変化し人々の待つ生活の場へととどけられ愛着を持って使い続けられるのです。

以上の様な事から北海道で生まれ育った「カンディハウス」はデザインアワードにふさわしいと思い推薦いたします。



ばあちゃんち(倉本邸・ニセコ)

1972年

制作者：倉本龍彦GD設計室

クライアント：倉本龍彦

推薦者：木下泰男

ニセコの「ばあちゃんち」は、建築家・倉本龍彦氏の初期建築を代表する作品で、大地に突き刺さるその造形は、日本モダニズム建築を象徴した北海道における日本を代表する住宅建築のひとつといえる。2013年、フランス・パリのポンピドゥーセンターにその設計図書原図一式が日本を代表して北海道から収蔵されている。



石狩市民図書館・帯広図書館一図書館2階

1999年・2006年

建築設計者：下村憲一

クライアント：石狩市・帯広市

推薦者：大阪克彦

近年の公共建築(施設)の設計はプロポーザル方式の設計競技によるものがほとんどです、一等をとらないと仕事は依頼される事なく涙をのむ事になります。そんな中推薦する2つの図書館は競技で勝ち取ったものです。そして地域の住民に対する説明会や長期に渡るミーティング・ワークショップを開き納得と合意を得てやっと実施設計に入れるのです。ここでの労力と時間に大変苦労すると聞いています。両館に共通しているのは外部のデザイナーや有識者とのコラボレーションチームをつくり、より良い住民に愛される施設にしようと努力した事だと思います。石狩市民図書館は日本図書館建築賞、バリアフリーデザイン賞を受賞しています。帯広図書館は全体的なデザインに加えてエコロジーを重視した設備設計の良さにも共感を得た建物として評価されたと聞いています。両館共に建物のファサードはもちろんですが絶妙に計画された内部空間もすばらしくその場に立った時の雰囲気は最高です。機会があったら是非行って下さい。道内には下村氏の設計による数々のすばらしい建物がありますが今回は特に2つの図書館を推薦いたします。



石狩市民図書館



帯広図書館一図書館2階



インラインペーラー is

2011年～2012年

株式会社ファシオネ 登 豊茂男・椿 隆宏

クライアント：株式会社IHIスター

推薦者：角本大弘

北海道の一大産業である農業を支える作業機メーカー株式会社IHIスターとともに、トラクターの右横で牧草や稲わらを収穫する「ペーラー」を、作業効率を高めるためにトラクターの真後ろで牧草等を拾い上げて排出する構造の「インライン」にリデザインした農業作業機「インラインペーラーis」。

海外の機械化が進んでいない地域や小規模農家、中でも特に富裕層が「購入したい」という気持ちになるように、機能と美しいフォルムが両立した製品を目指した。その他、通常2年かかる開発期間を8か月に短縮すること、チーム内意識共有を目標に掲げている企業様とともに、モックアップ作成による早期視覚化、開発初期段階からのイメージ共有、デザイン・加工工程の検討等を繰り返した。

顧客の課題である作業効率を高めるため機能を見直すこと、社会の課題である農業就労者を増加させるため、カッコよい農業機械で作業するスタイルに若い世代があこがれを抱くようになること、2つの課題をクリアする製品が当初の計画通り完成した。

さらに、このインラインペーラーisは開発者の想いと共に、企業イメージがふんだんに反映された製品に仕上がリ、フォルムのアクセントとなったシルバーラインは、後発の製品にも展開される結果となった。





北海道デザインアワードは

北海道のクリエイター(デザイン協議会会員)が選ぶ

北海道のデザイン活動の評価＝表彰事業です。

これにより、道内の優秀なデザイナーの存在と実績を

より多くの人に再認識して頂く事が目的でもあります。

作品募集内容

会員部門〈北海道デザイン協議会の会員の作品〉

1982年の北海道デザイン協議会発足時から現在までに北海道で発表された作品。
応募ジャンルは北海道デザイン協議会会員の各種デザイン。
自薦、他薦も問わず何点でも応募可能。

一般部門〈北海道デザイン協議会の会員が推薦する北海道デザイン協議会の会員以外の作品〉

1982年の北海道デザイン協議会発足時から現在までに北海道で発表された作品。
応募ジャンルは会員部門以外のすべてのデザインが対象。
受賞者はデザイン制作者や発注者、団体、個人すべてが対象。
北海道デザイン協議会の会員1名以上の推薦が必要となります。

作品審査方法

会員部門

1. 北海道デザイン協議会の会員で構成する審査委員会が第1次審査を行います。
2. 第1次審査を通過したノミネート作品を北海道デザイン協議会会員に通知し投票形式で第2次審査を行います。
3. 第2次審査の集計後、審査委員会によって最終審査を行い各賞と受賞者を決定します。

一般部門

1. 北海道デザイン協議会の会員で構成する審査委員会で審査を行い賞を決定します。

審査経緯

会員部門 応募点数：46作品(7名)

- グラフィック：33作品(9名)
- ファッション・テキスタイル：5作品(2名)
- プロダクト：3作品(2名)
- 建築：5作品(4名)

第1次審査	ノミネート作品	24作品
↓		
第2次審査(会員審査)	26名投票	
↓		
最終審査	★グランプリ 1作品	★優秀賞 5作品
	★入賞 18作品	

一般部門 応募点数 推薦者：12名(23作品)

- グラフィック・サイン・ディスプレイ・イラスト：7名(13作品)
- プロダクト・クラフト：4名(6作品)
- 建築：3名(4作品)

一般部門審査	デザイン協議会賞	8作品
--------	----------	-----

審査委員

会員部門 第1次審査

- | | |
|------------------|--------------|
| 浅井洋子〈審査委員会〉 | 大阪克彦〈アワード委員〉 |
| 伊達昌広〈審査委員会〉 | 三善俊彦〈アワード委員〉 |
| 木下泰男〈審査委員会〉 | 伊藤千織〈アワード委員〉 |
| 菅原耕治(会長) | 伊豆倉靖〈アワード委員〉 |
| 角本大弘〈アワード委員、事務局〉 | |

会員部門 第2次審査

デザイン協議会全会員

会員部門 最終審査

- | | |
|-------------|------------------|
| 浅井洋子〈審査委員会〉 | 角本大弘〈アワード委員、事務局〉 |
| 伊達昌広〈審査委員会〉 | 大阪克彦〈アワード委員〉 |
| 木下泰男〈審査委員会〉 | 三善俊彦〈アワード委員〉 |
| 菅原耕治(会長) | |

一般部門 審査

- | | |
|------------------|--------------|
| 浅井洋子〈審査委員会〉 | 大阪克彦〈アワード委員〉 |
| 伊達昌広〈審査委員会〉 | 三善俊彦〈アワード委員〉 |
| 木下泰男〈審査委員会〉 | 伊藤千織〈アワード委員〉 |
| 菅原耕治(会長) | 伊豆倉靖〈アワード委員〉 |
| 角本大弘〈アワード委員、事務局〉 | |

アワードスケジュール

会員部門

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 作品応募期間 | 2016年6月20日～7月31日 |
| 第1次審査 | 2016年10月1日(会場：ポルト北海道ドレスメーカー学院) |
| 第2次審査(会員審査) | 2016年10月19日～10月31日 |
| 最終審査 | 2016年11月15日(会場：株式会社アイ・エヌ・ジー) |
| 表彰式 | 2016年12月1日(会場：センチュリーロイヤルホテル) |

一般部門

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 作品応募期間 | 2016年6月20日～7月31日 |
| 審査 | 2016年10月1日(会場：ポルト北海道ドレスメーカー学院) |
| 表彰式 | 2016年12月1日(会場：センチュリーロイヤルホテル) |

北海道デザインアワード実行委員会

- | | |
|-------------|-----------|
| 菅原耕治(監修) | 伊豆倉靖 |
| 大阪克彦(実行委員長) | 徳中康弘 |
| 三善俊彦 | 角本大弘(事務局) |
| 伊藤千織 | 堀じゅん子(会計) |
| 梅村敦子 | |



北海道デザインアワード2016 審査講評

近代社会を牽引して来たデザイナーの社会的な立場が変化してきている。

ネット社会の驚異的な進展がデザイナーの立ち位置を少しずつ変えてきてしまった。高いインテリジェンスを持って、社会を牽引した時代は、終わりを告げているのかもしれない。

菅原会長の公約通り行われたこのデザインアワード2016会員の作品を会員が審査する、なかなか、他では味わえない審査会であった。とはいえ、審査会は公平且つ真剣な論議がなされた。デ協会員の作品部門と会員推薦の一般部門の応募総数69作品の中から会員部門24作品、一般部門8点が二次審査(会員投票)ノミネート投票総数を参考に最終審査が行われ、グランプリに伊藤友一さん、優秀賞に5作品が選ばれた。伊藤さんの作品は、グラフィックのすばらしさは然ることながら、空間性、地域性等の要因が評価の対象となった。他の作品も地域性をテーマとする作品が、多くの好感を持たれたのだと思う。

改めて思うが、北海道独自の観点から物を考えることが、グローバルとの決別を考える時なのかもしれない。

初めて開かれた、デザインアワードはデ協特有の他業種のデザインが集まり、楽しくもあり苦しくもある審査であった。まだ改良の余地は有るものの、これからも社会の資産としてデザインは、すばらしい仕事である。業界の起爆剤にデザインアワードになる様、進んで頂きたい。

北海道デザインアワード2016 審査委員会

北海道
デザイン協議会
**北海道
デザイン
アワード
2016**
記録集

発行日：2016年12月1日
発行：北海道デザイン協議会
編集：北海道デザインアワード2016実行委員会
デザイン：三善俊彦
印刷：中西印刷株式会社
発行所：北海道デザイン協議会
札幌市中央区北10条西20丁目2-22
(南)パディック内
TEL.011-676-389 FAX.011-642-2093